



一般質問や議案・請願討論でコロナ対策の強化を求め、みわ由美県議

## 医療機関、高齢者・障害者などの施設で定期的な社会的検査を求めました

コロナ「緊急事態宣言」が延長され、感染者は減少傾向にあるとはいえ、以前として高止まりです。県内でも、福祉施設等でクラスターが相次ぎ、変種株の感染者も確認されるなど、新たな感染拡大の大波が懸念されます。

みわ由美県議は、国に財政負担を求めつつ、早急に県の方針として、集団感染のリスクが強い医療機関、高齢者・障害者の施設等での定期的な社会的検査に踏みきるよう求めました。その後、県は、高齢者と障害者の施設職員（1000か所、約5万人）の検査を3月に実施することになりました。

**新たな感染拡大を食い止めるために**

# 新型コロナ 無症状感染者を把握・保護する 検査の抜本的拡充を

## 県独自に、誰でも、どこでも、何度でも無料で検査…法的に可能と答弁させました

加藤英雄県議は、感染抑制のためには、無症状感染者を見つけ出し、他人と接触させないことが重要だと指摘し、感染源を早期に発見する検査戦略（面の検査等）への転換を迫りました。県は「国の通知に基づき、感染を疑う方に、幅広く検査を行っている」と答えましたが、

法的に可能なことは認めざるを得ませんでした。県がやる気になれば、できることを明らかにさせました。県の検査の現状は、左グラフのように感染者を中心とする範囲に留まっています。加藤県議は、今後の爆発的感染を食い止めるうえからも県独自の「検査の仕組み」をつくるよう迫りました。



予算委員会で、感染急増地域でのPCR検査を求める加藤英雄県議



千葉県の1日当たりの検査能力 1万8998件（2/1現在）  
「面の検査」を実施するためには、大幅増が必要です。